

残雪の富士をどすんと忍野かな
熔岩踏んで川のほとりへ落の薹
せせらぎに囲はれし家や落の薹

クロツカス富士の地熱を噴きにけり
オブラートの溶けだすやうに春の雨
春耕や煙の中を人動く

亀鳴くや人工衛星混み合へり

紫木蓮ざんざの雨に温みあり

鳥語しきり底抜池の底に鱒

虹鱒の己の影の上泳ぐ

花万朵富士ある方はけぶりをり

杳杳とうねる小余綾緑立そこなしげ

阿夫利嶺に雨雲のあり蕨餅

花万朵翁の語る昔かな

初桜免許返納決めにけり

建ち並ぶ屋台や七日目の桜

花万朵時間が来れば飯を食ひ

満開の花やお尻のもぞもぞす

目覚むれば天日眩し梨の花

菜種梅雨乗り降りもなく列車発つ

賽の目の奇数の続く菜種梅雨

屈む児に鳩の寄りくる牡丹の芽

ぼうたんの朝の光にほどけ初む

銀杏若葉くよくよしても始まらぬ

ぼうたんや怠惰な時を昼下がり